

令和5年9月秋田市議会定例会一般質問者順序

フロンティア秋田 藤 枝 隆 博

自 民 党 飯 牟 礼 克 年

秋 水 会 見 上 万 里 子

そうせいと維新 若 松 尚 利

公 明 党 石 塚 秀 博

市 民 ク ラ ブ 安 井 誠 悦

フロンティア秋田 工 藤 新 一

自 民 党 工 藤 潤 平

秋 水 会 佐 藤 宏 悦

1 災害に強いまちづくりについて

(1) 初動体制と避難指示について

ア 秋田市災害対策本部を設置したものの、各種対応への初動に遅れが生じたと思われるが、本市としてどのように捉えているのか、また、全庁的な危機管理体制を見直すべきではないか

イ 太平川の増水に伴う避難指示を適切なタイミングで出せなかった要因をどう考えているのか、また、秋田県情報集約配信システムの検証結果と今後の課題は何か

ウ 内水氾濫による道路の浸水の危険性及び下水道の使用制限について、市民にどう周知したのか、また、その周知方法についてどう検証しているのか

(2) 浸水被害防止対策について

ア このたびの豪雨災害における市街地の浸水被害と内水浸水想定区域図は整合していたのか、また、未作成の地域の同図の作成はどうか

イ 堤防整備、排水機場整備、河道掘削などの河川整備及び下水道をはじめとする重要インフラ整備について、今後の計画はどうか

ウ 地下貯留施設、人工貯水池等の整備などにより、今後も被害発生が想定される市街地における内水氾濫などの都市型災害に備える考えはあるのか

(3) 地域の防災組織と復旧支援等について

ア 災害ごみの搬出、災害ボランティア要請、罹災証明書発行までの手順など、被災者へ必要な情報の周知方法はどうかであったのか

イ 避難所における備蓄品及び食事、トイレ、日用品などに不備はなかったのか

ウ 各教育機関、スポーツ団体などを対象とした、災害ボランティア活動の担い手育成を図るための取組を推進していくべきと思うがどうか

エ 被災した空き家の今後の対応と近隣住民への対策はどうか

オ 私有地等が被災した場合において、本市が復旧工事費用を負担する場合の明確な基準を今後設ける考えはないか

(4) 職員配置について

ア 本市の技術系職員数が減少する中で、インフラメンテナンスの効率化を図るための方策はどうか、また、災害対応の指揮を執ることができる人材確保についての考えは何かあるのか

イ 災害や新規事業などの業務量拡大に対しては、職員の兼務だけでなく、即応できる人材を新たに採用すべきと考えるが、人材確保についての考えは何かあるのか

2 外旭川地区まちづくりについて

(1) これまでのまちづくり懇話会等の協議において、地域課題に向けた先進的サービスの導入、地元企業の活用、若者が魅力を感じる雇用や起業機会の創出に関して、具体的にどのような意見や提案があったのか

(2) 若者が将来にわたり秋田市に住み続けたいと希望を抱くような雇用の機会と賃金水準を確保できる見通しはあるのか

(3) これまで本市が進めてきた多核集約型コンパクトシティの形成に関する施策との整合性について、まちづくり懇話会での理解は得られているのか

(4) 新スタジアム整備をめぐる秋田県と本市との認識の一致を図るためのトップ会談は既に行われたのか

3 マイナンバーカードの普及について

(1) 現在、政府が推進しているマイナンバーカードの普及に向けた取組に対する本市の現状認識とこれまでの評価はどうか

(2) マイナンバーカードに関する事務手続により業務量が増えた課所室等への影響はどの程度か、また、業務量の平準化に向けてどのような対策を講じているのか

(3) デジタル化推進本部の果たす役割は何か

4 市街化調整区域での移住定住を促進するための規制緩和について

(1) 空き家などの既存建築物の用途変更について、地域の実情に応じて柔軟に対応していることをPRすることにより、移住施策に反映すべきと考えるがどうか

(2) 都市計画法や農地法などの規制により移住希望者が本市移住をちゅうちょすることのないよう、関係部局で連携して情報発信やサポート体制の構築に努めるべきではないか

5 熱中症から高齢者の命を守る取組について

(1) 低所得世帯を対象としたエアコン購入のための支援を検討すべきと考えるがどうか

(2) 熱中症防止に関する情報について、より多くの高齢者に伝わるように、様々な機会を捉えて発信すべきではないか

1 このたびの大雨災害への対応と今後の災害対策について

(1) このたびの経験を踏まえて見えてきた災害対応や防災・減災に関する課題は何か、また、改善または対策を講じた事項はあるか、さらに、今回のような大規模な被害が発生しないよう、今後、どのような対策を講じていくのか

(2) 災害時の情報発信について

ア このたびの大雨災害において、迅速かつ的確な情報発信ができたと考えているのか

イ SNSを用いた情報発信の見直しと強化が必要と考えるがどうか

2 中心市街地活性化について

(1) 千秋公園について

ア 官民連携による駐車場整備方針及び旧香雲亭の利活用に関する現在の検討状況はどうか

イ 市民がより気軽に来園できるよう、駐車場整備方針が決まるまでの間、予約がない場合にはバス専用駐車場を一般開放してはどうか

ウ 佐竹史料館の改築に併せて、老朽化した園内コインパーキングをリニューアルしてはどうか

エ 老朽化が著しい公園管理事務所を早急に改築すべきと考えるがどうか

(2) 若者によるにぎわい創出について

ア 本市でも市内の大学生や高校生などの学生団体等が利用できる学習・交流施設を整備してはどうか

イ スケートボード場を整備してはどうか

3 インバウンドを中心とした観光客への対応について

(1) 国内外からの観光客による消費の機会を逃さないため、民俗芸能伝承館をはじめとした中心市街地の市有観光施設で本市の名産品などを

販売できるようにしてはどうか

4 地域コミュニティの在り方について

- (1) 町内会活動のデジタル化支援のため、秋田市デジタル化推進計画の施策の一つとして取り組んでいる町内会ポータルサイトの構築の現状はどうか、また、今後、さらなる施策をどのように展開していくのか
- (2) 町内会の会員が減少している現状についてどう認識しているのか、また、地域コミュニティの維持存続のため、今後、どのような対策を講じていくのか
- (3) 高齢者や障がい者などの情報弱者に必要な情報を適切に届けるための体制を構築すべきと考えるがどうか
- (4) このたびの大雨災害により発生した被災空き家について、本市として地域コミュニティの維持存続に向けどう対応していくのか

5 市民への情報発信等について

- (1) 子育てLINEについて
 - ア 登録者数増加に向け、現状はどのように取り組んでいるのか
 - イ 秋田市医師会と連携して子育てに関するアドバイスを発信するなど、さらなるサービス内容の充実に向けて取り組んでいく考えはないか
- (2) 道路除排雪対策本部のLINEについて、一方的な情報提供だけを行うのではなく、AI自動応答サービスを活用した情報提供や市民からの意見や要望の受付を行うなど、機能を拡充すべきと考えるがどうか

1 市長の政治姿勢について

- (1) このたびの豪雨災害発生時、市長は初動としてどのような活動を行ったのか、また、当初どのような取組方針を示したのか
- (2) 八橋運動公園内における新県立体育館の建設やバスロータリーの整備などについて、県の動向をどのように捉えているか
- (3) あきたこまちRへの切替えについて、消費者の反応と県の対応をどのように捉えているか、また、本市の農業にどのような影響があると考えているか

2 公共施設の県・市連携の在り方について

- (1) あきた芸術劇場ミルハスの開館までの取組と開館後の運営について、県・市連携という観点から本市としてどのように評価しているか
- (2) 県立体育館の建て替えにおいて、本市にどのようなメリットがあると考えているのか
- (3) プロバスケットボールの試合時等に使用されている市立体育館の移動式仮設席について、新県立体育館の完成後はどのようにしていくのか
- (4) 県立体育館の建て替えに際し、駐車場の確保を求める声が多いことから、秋田市文化会館を立体駐車場等として活用してもらうよう、県に譲渡してはどうか

3 このたびの水害対応を踏まえた災害に強いまちづくりについて

- (1) 他自治体から派遣された応援職員によるアドバイス等を取りまとめ、今後の参考としてはどうか
- (2) 市役所本庁舎は災害対応の中心となることから、竿燈まつりの市役所会場での屋台村を縮小、もしくは廃止すべきではないか
- (3) 災害ごみの仮置場となる場所をあらかじめ指定しておくべきではないか

- (4) 災害発生時には、被災地域における町内会長の負担が大きいと考えるが、軽減策を考えるべきではないか
- (5) 水害に遭った空き家について、専用の相談窓口を設置してはどうか
- (6) 内水氾濫対策として、水害のあった地域の商業施設に貯水機能向上の協力を仰ぎ、整備に当たっては補助等を行ってはどうか
- (7) 貯水機能を兼ね備えた新スタジアムを、水害のあった地域へ整備すべきではないか

4 人事行政の在り方について

- (1) 災害時等には国や他自治体との連携が重要であることから、自衛隊や県からの職員の出向など人事交流を促進してはどうか
- (2) 官公庁へ出向している本市職員について、時間外労働などにより業務負担が大きくなっている例はないか
- (3) 新規採用職員は採用1年目に各地域の消防団に体験入団してはどうか
- (4) 本市職員が日頃から地域に根差すよう、町内会役員や消防団、祭りへの参加など、地域で何らかの役割を持つように働きかけるべきではないか

5 市民におけるふるさと納税について

- (1) 市民による本市へのふるさと納税額は幾らか
- (2) 令和5年7月豪雨災害へのふるさと納税について、市民も寄附できる旨を周知してはどうか

6 中央卸売市場について

- (1) 花き部が公設地方卸売市場へ移行する予定であるが、青果・水産物部が地方卸売市場へ移行した際の経験等を踏まえ、場内事業者に配慮すべきことはあるのか
- (2) 花き部の公設地方卸売市場への移行により、どの程度人員削減ができるのか、また、将来的にはどの程度の削減を見込んでいるか

7 秋田駅西口駅前広場の現状について

- (1) 同広場の利用状況はどうか、また、熱中症対策は講じられているのか
- (2) 同広場のロータリーの混雑緩和策をどう考えているのか

8 廃校舎の利活用について

- (1) 統廃合により閉校した学校の校舎について、市街化調整区域等にかかわらず利活用できるようにすべきではないか

1 市長の政治姿勢について

(1) 市長のリーダーシップについて

ア このたびの豪雨災害対応だけではなく、物価高騰対策や新型コロナウイルス感染症対策などにおいても、スピード感を持って取り組めたのではないか

イ 子どもの医療費完全無料化や帯状疱疹ワクチンの接種費用の助成など、財政上の理由から本市で実施していない施策について、制度改革の要望等を含めた国や県への働きかけは適宜適切に行っているのか

ウ 例えば「子育て支援全国一を目指す」「地域の平均年収を1.5倍にする」など、市長が取り組みたい課題等に対してインパクトのある強いメッセージを打ち出し、積極的に発信するべきではないか

(2) 身を切る改革等について

ア 人口が90万人台となった秋田県において、さらなる合併や県・市連携によって行政の無駄を省くべきと考えるが、県都の首長としての考えはどうか、また、県内全体で約450人の地方議会議員がいることに対する考えはどうか

イ 人口減少が続いている中、職員数を含めた市役所の規模をどのように縮小していく方針であるのか

ウ 市長の退職手当をさらに減額する、またはゼロにする考えはないか

2 このたびの豪雨災害への対応等について

(1) 本市の対応について

ア 本市が所有する災害対策用排水ポンプ車の稼働状況はどうであったか、また、出動基準や必要な台数について、今後、検討する予定はあるのか

イ 他自治体において、地域の公園を大雨時の調整池にしている事例

があるが、本市でも整備を検討してはどうか

ウ 秋田市消防として、シンガポールで開催されている国際救助救命競技会に参加し、様々な知見を獲得するとともに、国を超えた交流を図ってはどうか

エ 災害協定に基づき協力いただいた各市町村や企業からの支援は十分であったのか、また、今後の大規模災害発生に備えるため、さらなる協定締結の必要性はどうか

(2) 被災者支援について

ア スムーズに民間団体と連携するため、危機管理監の下に専門チームを設けるべきではないか、また、被災者だけではなく、ボランティアに対しても入浴や宿泊の支援などを行うべきではなかったのか

イ ペットを連れて避難する場合の避難所での生活について、一定のルールを定めておくべきではないか

ウ 災害時には支援物資車を派遣して被災地域の各町内等を巡回したり、市民サービスセンター、コミュニティセンターなどの市有施設を物資の配布場所として活用すべきと考えるがどうか

エ 被災した商店等の支援のため、コロナ禍に行った消費喚起策のような施策や支援金の支給を行ってはどうか

(3) 災害発生時の情報発信等について

ア 広報監のような職を新たに置き、情報発信について抜本的に見直すべきではないか

イ もっと市民目線に立った情報発信について、庁内で勉強会などを開催すべきではないか

ウ 市が行うべきこと、民間事業者等にお願いしたいこと、地域住民にお願いしたいことを整理し、平時から周知しておくべきではないか

3 外旭川まちづくりモデル地区整備事業について

(1) 外旭川地区のまちづくりについて

ア 秋田市外旭川地区まちづくり基本構想では、モデル地区の位置づ

けとして、「多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、地区内での実証的な取組で得られた成果を広く他の地域にも波及させ」るとしているが、本来の意味でのモデル地区の整備とは、外旭川地区で実施する事業を横展開することではないのか

イ 他都市で中心部や駅前立地型のモールが整備されている状況の中、外旭川地区のような郊外型モールの整備は先進的なまちづくりのモデルとなり得るのか

ウ ゼロカーボンに取り組むとあるが、この事業での二酸化炭素削減量と、建設等による二酸化炭素発生量は、どこかの時点で均衡することはあるのか、また、A IやI C Tの活用をうたっているが、それらは、本来、ハード面での新しい都市開発を不要とするためのものではないのか

エ 市街化調整区域での商業活動は、都市計画法第34条第1号の規定でも極めて厳しい状況の中、当該事業においては特定の事業者に対して比較的容易に許可されるような印象を受けるが、他の事業者との公平性は保たれるのか

(2) 新スタジアムについて

ア 現在の県・市のスタンスとしては、あくまでも民設民営であるとして市民の疑問への回答を避けている一方、事業パートナーからの提案では公費負担分が大きいように感じるがどうか

イ 新スタジアムの整備による経済波及効果について、現在の構想では事業パートナーが恩恵を受ける部分が多すぎると思うがどうか

ウ 新スタジアムの耐用年数はどの程度を想定しているのか、また、事業パートナーが撤退した場合や、ブラウブリッツ秋田が解散・合併するケースなどは想定しなくてもよいのか

エ このたびの基本計画策定に当たっては、外旭川地区の地盤やアクセスの問題など、新スタジアム整備構想策定協議会報告書に記載のものと同様の視点で評価しているのか

オ 秋田大学敷地案の場合であれば隣接するJ R社宅用地も活用したり、八橋運動公園案の場合はブラウブリッツ秋田の岩瀬社長も可能

と話していたASPスタジアムを改築するなど、これまで県から提案された候補地について、新しい案を含めて再度検討してはどうか

4 子育て支援と安全安心な暮らしについて

(1) 山形市で整備し、好評を得ている、シェルターインクルーシブプレイス「コパル」のような屋内遊戯児童施設を本市でも整備する考えはないか

(2) 本市において、いわゆる「コピペ事故」対策は行われているのか、また、公益社団法人日本技術士会が取り組んでいる「かかりつけエンジニア」を導入する考えはないか

(3) クアドーム「ザ・ブーン」は、施設内に段差などがあり、身体の不自由な方などが使いづらい状況であることから、改善が必要ではないか、また、同様の状況について、市有施設を改めて調査するべきではないか

5 歩いて暮らせて、観光できる魅力的なまちへ

(1) 中心市街地の活性化について

ア 中心市街地にマンションやホテルを建設する際、地元商店街の連続性を維持するため、事業者に対して低層部にテナントスペースを設置してもらうよう誘導してはどうか

イ 秋田市公営駐車場を一定程度無料化する考えはないか、また、広小路や中央通りに無料の駐車スペースを造ってはどうか

ウ 秋田市自転車等の放置防止に関する条例における規制を一部緩和し、歩道上に駐輪ラックを設置することにより、短時間の路上駐輪が可能なエリアを設けてはどうか

(2) 観光で稼げるまちへ

ア 八橋油田やL字型のかやぶき古民家、昔ながらの横丁など、あまり整備されていない観光資源を、案内パンフレットの作成や、移動手段の確保などにより観光に生かす考えはないか

イ 民間活力による千秋公園及び大森山公園の活性化をもっと進める

べきと思うがどうか、また、これらの公園を主会場として本市で全国都市緑化フェアを開催するよう関係団体に働きかける考えはないか

ウ SLは市内数か所で保存されているが、旧秋田市電車両や初代こまち車両など、秋田市ならではの歴史的車両を秋田機関区跡地などで保存・展示してはどうか

(3) 公共交通について

ア 公営交通、特に秋田市内のバスの運営について市として改めて考える気はないか、また、マイタウン・バスや中心市街地循環バスの運行も含めたバス事業者の選定に当たり、もっと競争原理を取り入れた選定の方法を検討してはどうか

イ 路線バスに当たっては、バス事業者から求められるがままに補助をしているように見えるが、便数の確保や路線維持などの条件づけはなくてもよいのか

ウ 本年4月に改正された、いわゆる地域公共交通活性化再生法にタクシーも位置づけられているが、運転手確保、交通系ICカード決済など、バスと同様の支援を行うべきではないか

エ バス運転手の成り手不足の中、専用レーンを用いた自動運転バスの運行は実現性が高いと思うが、市で運営する考えはないか

6 市議会への関心を高めるための取組について

(1) 投票率の向上を目指す取組として、他市で行われている選挙割を市内事業者にも実施してもらうため、投票済証明書を発行してはどうか

(2) 本会議における一般質問等に対する答弁においては、「他市の事例を注視しながら検討を進めてまいります」といった定型的な言い回しが散見されるが、もっと議会に関心を持ってもらうためにも、市民にとって分かりやすい表現やその後の検討状況の発信など、対応を工夫してはどうか

1 記録的大雨による災害への対策について

- (1) これまでの災害対策は、外水氾濫と内水氾濫について別々に検討し取り組んできたと思うが、今後は、複合して氾濫が発生するケースも想定した対策に取り組む必要があると考えるがどうか
- (2) このたびの被災直後の対応についてどのように検証し、その結果を近い将来また起こるかもしれない大雨災害に対してどのように生かそうと考えているのか
- (3) 今後、本市でも大雨災害が頻発化する可能性もある時代の到来を鑑み、市民が被災した際にパソコンから情報を取得する余裕がない、あるいはインターネットにアクセスできない場合等を考慮し、大雨被害に関する問合せ一覧等の保存版を町内会に配布して町内会館等に掲示する取組が必要と考えるがどうか
- (4) 民間団体等との災害時の協定には、応急生活物資の供給等に関する協定があるが、地域の中で周囲に車両を避難させる高台等がない場合、商業施設の立体駐車場は、地域住民にとって緊急避難のために必要な施設であると考えられることから、災害時に立体駐車場を開放する旨の条項を協定書に追加することについて、どのように考えているのか

2 古川流域の総合的な治水対策について

- (1) 南部地域において、今後、種類の違う複数の工事が同時期に行われることから、地域住民に工事への理解や協力をいただくためにも、それぞれの概要や工事目的等を地域住民の目に触れやすい場所に分かりやすく掲示する必要があると考えるがどうか
- (2) 今年6月に南部市民サービスセンターで開催された古川流域の総合的な治水対策事業に関する説明会において、県から猿田川樋門のゲート形式がオートゲート形式からスライドゲート形式に変更となったという説明があったが、ゲート形式を変更した理由について、何か伺っているのか

(3) 各施設等の連携強化について、令和4年9月定例会の一般質問において、市長は、排水機場については、全ての施設の操作を1か所にまとめて行うことは考えていないものの、効果的な排水作業を行うため、各樋門と排水機場が連携し運用できる仕組みについて、各施設間で調整を進めていると答弁しているが、具体的にどのような連携を考え、治水対策を進めようとしているのか

(4) 治水対策事業の早期完成に向けた本市の意気込みはどうか

3 八橋運動公園の管理・運営について

(1) 新県立体育館整備基本計画の検討状況等に関する中間報告に対し、同公園の設置者である本市としてどのように捉え、今後、同公園をどのように管理・運営していくのか、また、県に対して本市の考えをより具体的かつ積極的に伝えていくべきと思うがどうか

4 帯状疱疹予防ワクチン接種費用の助成について

(1) 令和5年6月定例会の一般質問での今後も引き続き国の動向や他自治体の状況を注視するという答弁から一步前進させ、本市として公費助成の必要性を改めて検討すべきと考えるがどうか

(2) 接種費用の助成を行うために必要な新規財源の確保に向けた検討も併せて行うべきと考えるがどうか

5 公共交通網の再編について

(1) 予約制乗合タクシー実証事業によって得られた成果と課題を今後の取組にどう生かしていくのか

(2) 公共交通網の再編により、生活に必要な移動がしやすくなることを知ってもらうことが必要であり、その将来像を理解してもらうべきと思うが、そのための具体的な取組について、どのように考えているのか

(3) 路線バスと乗り合いタクシーを含むタクシーが共存する公共交通網の将来像をどのように描いているのか、また、どのような姿で利用し

てもらおうと考えているのか

1 豪雨災害による中・長期財政見通しに与える影響について

- (1) 今年3月に作成された秋田市中・長期財政見通しにおいて、令和8年度には財政調整基金・減債基金の合計残高が約4億円になる見込みであるが、このたびの豪雨災害が残高に与える影響はどうか、また、今後、基金の枯渇により大雪の際の除排雪などに対応できるのか

2 中心市街地の活性化に向けた環境整備について

- (1) 広小路と中央通りの一方通行規制解除について、周辺環境の変化や現状路線での対面通行の方法も検討されてきていることから、交通渋滞や整備費用への懸念など交通環境の観点だけではなく、中心市街地のにぎわい創出の観点から、県や商工会議所と積極的に検討していく考えはないか
- (2) 広小路の歩道に屋根つきベンチやあずまやなどを整備することで、回遊性を高め、居心地よく滞在できる「やすらぎのシンボル道路」にふさわしい環境整備を検討してはどうか

3 新県立体育館の整備について

- (1) 県は新県立体育館をPFI方式で市有地に建設する方針であるが、指定管理者が施設利用料の引上げ、駐車場の有料化を実施するなど、営利性が強くなるのであれば、県に土地購入を求めるべきではないか
- (2) 本市の強い要望により、丘を再形成することになった場合は、増額分の費用を本市が負担すべきではないか

4 新スタジアム整備について

- (1) 新スタジアムを現卸売市場敷地内に整備し、卸売市場の施設と一体、あるいは、卸売市場を補完する施設とするなど、両施設を有機的に活用することを検討してはどうか
- (2) 整備手法として、国の補助金や企業版ふるさと納税、スポーツ振興

くじ助成などを効果的に活用できるよう、民設民営方式にこだわらず様々な手法を関係機関と協議してはどうか

5 部活動の地域移行について

- (1) スポーツ庁と文化庁が策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」では、今年度から令和7年度までの3年間で改革推進期間として、部活動の地域移行を段階的に進めるとされているが、本市の現在の進捗状況はどうか
- (2) 本市が、今年5月に行った児童生徒や保護者、中学校教員を対象とした「部活動と休日におけるスポーツ・文化芸術活動に関するアンケート」の調査結果を踏まえて、今後の地域移行をどのように推進していくのか

1 大雨災害の対応について

- (1) 被災者の生活再建には、現行の国、県、市の支援制度を運用するだけでなく、本市独自の支援が必要と考えるがどうか
- (2) 浸水家屋に対する消毒について、床上浸水した家屋に対しては、市による消毒作業の支援を行ったが、床下浸水した家屋に対しても同様の対応をすべきではなかったか
- (3) 浸水家屋の対応について、被災者への情報提供が不足していたと考えるが、どのように周知してきたのか、また、現状をどのように捉え、今後、どのように対応していくのか
- (4) 河川の氾濫等の被害を受けた本市として、県に対し、このたびの大雨における河川管理とダムの緊急放流について、その経過等を聞くことはできないのか

2 危機管理体制の検証等について

- (1) このたびの大雨災害において、被害状況の把握と市民への情報伝達はどのように行われたのか
- (2) 災害時における市民に最も近い情報伝達の拠点は町内会等と考えるが、今回の災害においてどのように機能したのか、また、そのためにどのような準備をしてきたのか
- (3) 秋田市災害対策本部情報システムは、いつ、どのように稼働し活用されたのか
- (4) 緊急時には、ある程度の情報の一元化を図ることが必要と考えるが、それぞれの部局の情報を共有できる体制を構築すべきではないか

3 除排雪について

- (1) 昨年の除排雪計画による対応の結果を踏まえ、今冬は何がどのように改善されるのか
- (2) 各コミュニティセンター等における貸出用小型除雪機の使用状況と

課題は何か

- (3) 各市民サービスセンターに小型除雪機運転要員を新たに配置し、要望に応じて対応する考えはないか

4 泉外旭川駅について

- (1) 建設時に想定した利用者数はどの程度達成されているのか
- (2) 周辺交通網との連携はどのように図られているのか
- (3) 本市が負担するランニングコストは幾らくらいになっているのか
- (4) 同駅における利用者数や周辺交通網との連携、施設の維持管理費等の状況について、どのように評価し、今後の課題をどう捉えているのか

5 学校給食への食材の安全供給について

- (1) 政府は、福島県産物の利用促進を呼びかけているが、本市として、学校給食の食材確保において、どのように安全性を確保するのか、また、使用食材の産地等の公表はしないのか

6 八橋運動公園再整備計画の策定等について

- (1) 八橋運動公園再整備計画を策定すべきと考えるが、いつ策定するのか
- (2) 市民からの丘の存続を求める意見をどのように受け止め、今後の同公園の整備にどう生かすのか

7 外旭川地区のまちづくりについて

- (1) 現在、本市においては、大雨災害によって被害を受けた市民の生活再建を最も優先し、その支援等に財源を最大限投入して制度の拡充などを図るべきであり、「外旭川地区のまちづくり」は一旦棚上げし、事業を見直すべきと考えるがどうか

1 豪雨災害への対応等について

- (1) 都市型水害への対策として、市有施設の新規整備や改修に合わせて積極的に雨水貯留浸透施設を新設する考えはないか、また、既存の下水道管とは別に一時的に雨水をためておく貯留管を新設するなど、今後の抜本的な対策をどのように考えているのか
- (2) 少しでも下水道管へ流れる雨水の量を減らし、浸水被害を軽減させるほか、断水時などに雨水を有効活用できるよう各家庭や事業所に雨水貯留タンクの設置を呼びかけることにより、災害により強いまちづくりを推進していく考えはないか、また、雨水貯留タンクの設置に当たり、その費用を助成する考えはないか
- (3) このたびの豪雨で被害に遭った地域で散見される被災空き家において、放置されたままの汚泥や悪臭が住民の悩みの種になっているが、こうした被災空き家への対応をどう考えているのか
- (4) 避難所の運営において浮かび上がった課題と今後の対応はどうか、また、避難支援対象者名簿は活用できたのか

2 防災・減災について

- (1) 災害時の情報発信の充実強化を図るため、防災チャットボットの導入について検討してはどうか
- (2) このたびの豪雨災害で浸水被害を受けた横森地区では、地元の町内会で組織する自主防災組織が住宅の被害状況を調査したが、こうした事例を紹介することにより、他地域においても自主防災体制を整える機運が高まるよう取り組んではどうか
- (3) 自助・共助に対する取組、課題及び今後の展望についてどう考えているのか
- (4) 居住に適当でないと認められる区域内にある住居の集団的移転を促進する防災集団移転促進事業の活用は、空き家対策の切り口にもなると考えるがどうか

3 本市における再生可能エネルギーの普及と活用について

- (1) 今年度策定する「（仮称）秋田市新エネルギービジョン」の基本コンセプトは何か、また、その実現のため、今後どのような施策を展開していくのか
- (2) 本県・本市で生み出された再生可能エネルギー電力を市内企業や市民へどのように還元していくのか
- (3) 本市の洋上・陸上の風車群を新たな観光資源と捉え、見学ツアーを組み込んだ観光商品の開発に積極的に取り組むべきではないか
- (4) 環境教育の一環として、市立小・中学校において再生可能エネルギーに関する学習機会を設ける考えはないか
- (5) 産学官連携による「あきた次世代エネルギーコンソーシアム」と本市において、今後、水素やアンモニアなどといった次世代エネルギーの供給（送る）体制の整備に注力していくべきではないか、また、次世代エネルギーの需要（受ける）をどのように創出していくのか

4 少子化対策について

- (1) 喫緊の課題である少子化対策の取組を強化するため、子ども関連施策を集約した新たな組織を創設してはどうか
- (2) ペーパーレス、DX化が進められる中、本市が発行する子ども福祉医療費受給者証を持ち運びが容易なカード型にする考えはないか
- (3) 現在本市では、産後6か月までの産婦を対象に母乳育児相談補助券1回分を助成しているが、産後の体調や育児に不安のある産婦への切れ目のない支援を充実するため、その対象を産後1年まで広げるとともに、補助券の助成を3回分に拡充する考えはないか

5 人口減少下における自主財源の確保について

- (1) 市税収入の確保に向けた現在の取組状況はどうか
- (2) 市有施設等の使用料や手数料以外の本市独自の財源確保について、市長が描く新たな自主財源の柱となる施策は何かあるのか

6 人事について

- (1) 専門性の高い業務を担う部局において、外部人材の管理職への登用を積極的に進めてはどうか

7 チャットGPT等の生成AIの活用について

- (1) 本年7月3日から本市の業務において試行が始まったが、業務効率化を含め、現状をどのように評価しているのか
- (2) 今後どの分野で活用することを想定し、どこから着手し、どのように拡大していくのか、また、利活用する職員、教員及び児童生徒のリテラシー向上を含め、リスクをどう想定し、どのように対処していくのか

8 勝平市民グラウンドについて

- (1) 同グラウンドの人工芝化や老朽化した用具庫の建て替えに本腰を入れるため、まずは利用の多い秋田市サッカー協会、秋田市ソフトボール協会、市内のグラウンドゴルフやラグビー関係者などに施設の整備に関するアンケートを実施し、利用者の声を聞くべきではないか

9 市立秋田商業高等学校について

- (1) 校舎南側にあるサッカー部と軟式野球部が使用する部室について、新たに整備する考えはないか

10 地域の諸課題について

- (1) JR新屋駅に関して、東口改札の新設、東西連絡通路の整備などのほか、全体的なバリアフリー化の必要性を求める声が多く、地元の秋田市新屋振興会からも市に対して要望されていると思うが、このことについて、市としてどう捉えているのか、また、今後、JR東日本秋田支社とどのように協議していくのか
- (2) JR新屋駅前の市道について、歩行者の安全を確保するため歩道を

整備してはどうか

1 県との関係性について

(1) 新スタジアムの整備について

ア 整備候補地について、市長と知事の考え方に違いはないか

イ 知事は、整備候補地について、軟弱地盤であると述べているが、造成に費用及び時間を要することにより、整備計画に影響が生じることはないのか

ウ 知事は、外旭川地区のまちづくり事業と切り離し、単独で整備を行うべきであるとの考えを示しているが、あくまで同事業の一環としての整備を目指すのか

エ 整備に係る様々な点において、市長と知事の見解に大きな乖離があるように感じるが、地域未来投資促進法の活用に向け、県と共同で作成する地域未来基本計画に影響はないのか

(2) 新県立体育館の整備について

ア 八橋運動公園の所有者である本市や地域住民の意見を十分に取り入れるよう県に強く要請すべきではないか

(3) 避難情報の発令の在り方について

ア 知事は、秋田県情報集約配信システムの仕組みについて、市長が誤解していると指摘しているが、このたびの豪雨災害における運用は適切であったと考えているのか、また、運用の課題等についての検証は既に行ったのか

(4) 秋田県における本市の役割をどのように考えているのか

2 災害対応等について

(1) このたびの豪雨災害への対応について

ア 初動が遅れたとの指摘があるが、災害対策本部の体制、市民への情報提供、各部局への指示等は、適切であったと考えているのか

イ 市民から寄せられる相談に対応する体制は十分であったのか、また、市民からの緊急の要望に対する人的・物的支援が不足している

との声があったが、本市としてどのように考えているのか

ウ 避難所の開設及び運営は適切に行われたのか

エ 災害廃棄物の収集や戸別収集に関する市民への情報提供等は、適切に行われたのか、また、浸水地区における環境衛生対応は適切であったのか

オ 罹災証明書の発行が遅れた理由は何か、また、今後、同規模の災害が発生した場合に備えて、どのような対策を講じていくのか

カ 防災行政無線及びドローンは使用したのか

キ 災害協定を締結している民間団体等からはどのような支援があったのか、また、今回の経験を踏まえ、今後、どのような支援が必要であると考えているのか

ク 市民に必要としている支援物資が行き届いていなかったとの指摘があるが、本市の認識はどうか

(2) 災害への備えについて

ア 過去に経験のない災害への備えを今後どのように進めていくのか

イ 過去の災害における対応について、これまでどのように検証してきたのか、また、検証結果から得られた教訓は、実際の災害対応にどのように生かされているのか

ウ 水害ハザードマップ及び内水浸水想定区域図を一体化し、問合せ先も一本化するなど市民目線に立った改善が必要と考えるがどうか、また、浸水想定区域の見直しを行う考えはないか

エ 自主防災組織の充実強化に向けた支援をどのように行っていくのか

(3) 秋田市地域防災計画について

ア 同計画の第20次修正において、平成29年7月、同年8月及び平成30年5月の大雨を踏まえて追加された対策は、このたびの豪雨災害に生かされたのか

イ このたびの豪雨災害において、同計画で掲げられている防災対策は、十分であったと考えているのか

ウ 防災に係る本市の取組について、市民の理解と協力を得るため、

同計画を市民に知ってもらふ必要があると思うが、今後、どのように周知していくのか

3 古川流域の総合的な治水対策事業について

(1) 同事業は、平成29年7月豪雨と同規模の洪水に対し、床上浸水被害の解消を目標としているが、近年、全国的に想定を超える豪雨災害が頻繁に発生していることを踏まえ、事業目標の見直しが必要ではないか

4 あきエコどんどんプロジェクト事業について

(1) あきエコどんどんプロジェクトアプリのお知らせ欄は、災害時における市民への情報提供の手段として有効であると考えることから、今後、積極的に活用すべきと考えるがどうか

(2) 同事業の参加者数は増加しているのか、また、事業効果をどのように評価しているのか

(3) 協力事業者数の推移はどうか、また、協力事業者からの同事業に対する評価はどうか

(4) 同事業は、秋田市ゼロカーボンシティ宣言の趣旨に沿うものであることから、市民意識を高め、事業効果を向上させるため、予算を増額し、さらなる取組を行うべきではないか

5 農業について

(1) 本市の有機農業の普及・振興に向けて、今後、どのように取り組んでいくのか

(2) 水田活用の直接支払交付金の見直しについて

ア 今後5年間で一度も水張りをしない水田は、同交付金の対象外となるが、同交付金の見直しを行わないよう国へ要望する考えはないか

イ 同交付金の見直しにより、離農や耕作放棄地等が増加するとの懸念があるが、本市の認識はどうか

ウ 同交付金の見直し内容について、農家に理解してもらうため、市として積極的に情報提供を行うべきと考えるがどうか

6 市立小・中学校の学校給食調理場へのエアコン設置について

(1) 未設置の調理場に対し、今後、設置する予定はあるのか